

# 現場から。

ものづくりの魅力を訪ね歩く

## 大阪圧搾コルク



堅田 社一郎社長

# 大型加工×「絶対検査」

大阪圧搾コルクは、創業当初は日本酒や瓶ビールのコルクを製造していた。現在は金属加工業を専門にし、産業機械・工作機械のベースフレームや架台などを手掛ける。高精度かつ短納期で納品できるのが強みだ。近年はSKT4やハステロイ、チタンやインコネルなど難削材の加工も行う。また、夜は無人で機械を動かすなど人がいなくても部品を量産できる仕組みを構築した。

同社は本社工場と東住吉工場に5面加工機や門型マシニングセンタなど計24台の工作機械を揃える。大型加工に対応した工作機械を多く揃えているのが特長で、5年前には新日本工機の5面加工機「AIC-200」を導入。全長6000mmまでの長尺なワークに対応し、今までは同製品でないと対応できない仕事が3割を占める。

24台と多くの工作機械を保有する同社だが、ほとんど中古で購入しているという。「安く機械を仕入れることで、ユーザーにも部品を安く提供できる」（堅田社一郎社長）。購入価格を抑えるためヤフオクやメルカリ、ジモティーなども活用する。

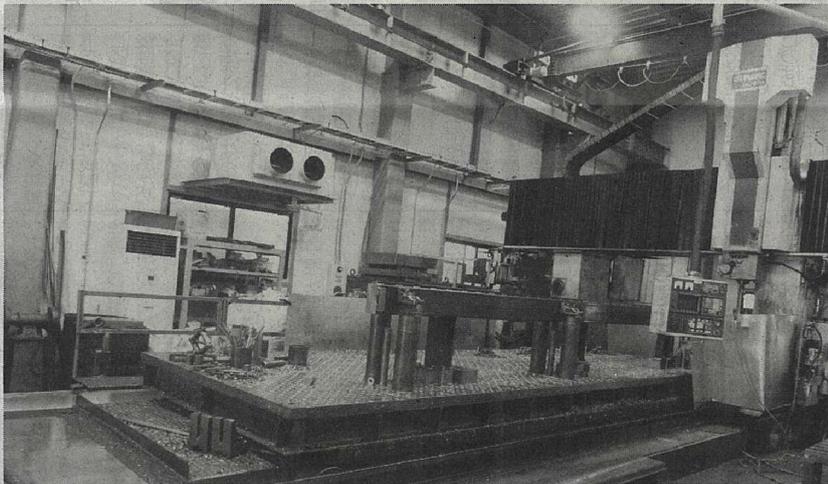
### 部品をリーズナブルな価格で

難削材加工においては、商社や販売店からの適切な工具の紹介が大きな助けとなった。堅田社一郎社長は「商社や販売店が持つ情報を的確に、適切に、定期的に教えてほしい。1時間の加工が30分でできるキッカケになる」と話す。

2022年には同社の営業部門を分社化し、「モノづくり支援事業」を手掛けるノゾックを設立。メーカーから金属加工の依頼を受けた際に最適な協力会社に加工を依頼し、製造された部品をノゾックが検査しメーカーに納品する。協力会社は全国に約6200社あり、「絶対検査」体制を掲げ不良流出は0～0.43%で推移する。ノゾックの検査員を同社に配置するなど連携体制も構築している。

今後は技術継承にも力を入れる。ベテランの経験や勘をマニュアル化して後世につないでいく方針だ。ただ、マニュアル化だけでは細かい部分まで伝わらないと考える。「対面で人に実際に教えてもらい、その上で作業を実際に行ってみるのが技術継承の基本」と堅田社一郎社長は語る。

本社：大阪府大阪市淀川区中北1-1-74  
事業内容：大型切削加工  
従業員：25人  
電話：06・6391・7147  
創業：1951年



新日本工機の5面加工機「AIC-200」は全長6,000mmまでのワークに対応できる